

「長期受刑者の仮釈放を考える」

無期懲役や長期受刑者の社会復帰について考えるセミナーを開催します。

日 時：2008年 3月 23日(日) 13:00～17:00

場 所：明治大学リパティタワー7階 1073教室

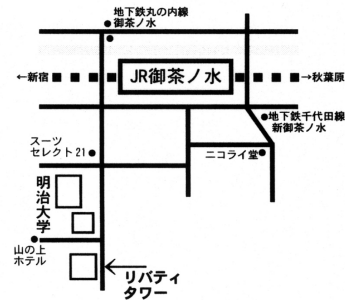
講 師：土井政和氏

特別講師：ヴィヴィアン・スターン氏

アンドリュー・コイル氏 (通訳有り)

参加費：1000円

主催：NPO法人 監獄人権センター



多くの、いや、ほとんどの受刑者が、最も望んでいるのが一日も早い出所であり、最も不安なことが、出所後の生活がうまくやっけていけるかという問題ではないでしょうか。とりわけ、無期を含む長期受刑者にとっては切実な関心事でしょう。残念ながら、仮釈放の門はより狭まっており、また、出所後、再犯に至ってしまうケースも少なくはない現実があります。監獄人権センターでは、講師に土井政和先生を迎えて日本の刑務所の問題を「出口」から見直すセミナーを開催します。また、スターン氏、コイル氏には、終身刑と釈放後の社会復帰支援に関する英国の最近の政策やその実状について紹介してもらいます。

講師紹介

土井政和氏：九州大学大学院法学研究院教授（刑事法）

行刑に関しては、「社会的援助」をキーワードに犯罪者処遇を再構成する基礎理論の構築に努めてきた。行刑のみで「完結」する被収容者の人格変容を目指す処遇ではなく、社会復帰する彼らの生活関係の再建を目指した、更生保護との「一貫した社会的援助」を軸としている。この構想は、行刑と福祉との相互関係や犯罪者処遇への市民参加の問題へと射程を広げ、刑務所改革のあり方について問題提起している。更生保護に関しては、刑事政策と社会福祉政策の関係についての研究、更生保護関係法に関する立法学的研究、そして、最近では、更生保護が福祉援助的活動から社会防衛的コントロールへと転換しつつあることを指摘して、社会的援助と社会的コントロールとを対抗軸に「社会内刑罰」の動向などを研究している。

ヴィヴィアン・スターン氏：英国上院議員

刑事司法活動及びNGOにおける幅広い経験を持つ。40か国で刑務所改革プロジェクトを行っているPenal Reform Internationalの名譽事務総長を1989年から務めている。刑務所改革に関し40か国以上を訪問し、アドバイスをを行い、刑務所の代替手段に関する専門家として知られる。コイル氏とはご夫婦。

アンドリュー・コイル氏：ロンドン大学キングズカレッジ国際刑務所研究センター教授

英国プリズンサービスで25年、刑務所長の経験をもつ。国連や欧州評議会等の国際機関の専門家コンサルタントとして、多くの国々の刑事施設を訪問し、刑務所に関する事項について幅広い国際経験を有する。

問合せ：監獄人権センター

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-13 8F 菊田法律事務所気付
TEL&FAX/03-3259-1558 E-Mail/cpr@jca.apc.org <http://www.jca.apc.org/cpr/>